

平成29年7月6日

農作物生育・技術情報4号

日高農業改良普及センター日高西部支所
JAびらとり JA門別町

1. 水稻生育状況（7月1日現在）

品 種	生 育 状 況		
	項 目	29年	平 年
ななつぼし	草丈 (cm)	37.7	43.7
	葉数 (葉)	8.6	8.5
	莖数 (本/m ²)	418.0	431.4
	幼 形 期	—	7月6日
	遅速日数	±0	—

6月中旬は比較的日照があり、分けつも進み、莖数は平年並みに近づいてきました。また、夜温が低いこともあり草丈は短いですが、葉数も平年並みとなり、生育は回復してきました。

「ななつぼし」の幼穂形成期は、平年7月6日です。「ゆめびりか」の方が幼穂形成期になるのが早いので、品種ごとに幼穂を確認して、適正な水管理を行いましょう。

【 技 術 対 策 】

○幼穂形成期からの水管理

- ・幼穂形成期後10日間（前歴期間）は水深10cm、平均水温25℃以上保つようにする。分けつが少ない場合は、最初の5日間は5cmとし、その後10cmまで深水にする。その後、約10日間（冷害危険期終了まで）は水深10cmから徐々に20cmまでにする。
- ※天候不順時の入水は、水温低下を招くので、かんがい溝と水田の水温差が比較的小さい夜間から早朝にかけて行い、水田の水温低下を少なくする。

○幼穂形成期の追肥

- ・ケイ酸追肥で耐冷性を高め、不稔発生の軽減とタンパクを低下させる。
- 追肥時期：幼穂形成期7日後、ケイカル、ゆめシリカ等20kg/10a

○病虫害防除

- ・いもち病防除は、発生しそうな水田をよく観察し、水面施用剤で予防防除を行う。
- ・紋枯病は高温多湿になると発生するので、7月中旬頃に水際部を観察し、莖に灰色の円形状の病斑が広がってきたら防除する。
- ・イネドロオウムシ、フタオビコヤガは高温、多照が続くと発生しやすくなる。葉が白くなるほどイネドロオウムシに食害されたり、葉がなくなるほどフタオビコヤガの食害と減収するため、1株に幼虫が3～4匹見えたら防除する。

2. 畑 作

(1)ばれいしょ

○疫病防除

20℃前後で湿度が高い状態で多発します。7～10日間隔で定期的に防除を実施しましょう！

○軟腐病防除

高温多湿条件で多発します。夜間ムシ暑くなったら防除が必要です！

(2)秋まき小麦

出穂30日後より穂水分測定が可能です。ほ場を巡回し収穫順番を決定しましょう。

*赤かび病の発生したほ場は別列とし、分けて乾燥調整作業を進めましょう。

(3)豆 類

開花の約20日前には、花芽分化が始まっています。断根しないようにカルチ作業は7月上旬までに終了しましょう。

地力が低い場合や初期生育が劣っている場合には追肥をしましょう。

「追肥の時期と施肥量」

- ・小豆 本葉3葉期～開花始め 窒素量 5kg/10a
- ・大豆 開花始め 窒素量 5kg/10a

3. 主要野菜の生育状況

作物名	生育状況	技術対策
トマト	5月定植 ・第1段目収穫中。第6花房開花。 6月定植 ・低温による開花遅れのため定植作業が遅れた。第2～3花房開花。 ・半身萎凋病、褐色根腐病、茎えそ細菌病、かいよう病、灰色かび病等が一部ほ場で見受けられる。	・ハウスビニールのこまめな開閉により適正な温度管理に努め、樹勢維持のために追肥とかん水量を調整する。 ・30℃以上では落花が多くなるので高温時には十分な換気を行う。 ・茎えそ細菌病やかいよう病は樹液感染するので、疑わしい株は最後に作業を行う。 ・灰色かび病や葉かび病対策は予防をかねてローテーション防除を行う。
ハウス軟白ねぎ	・2月定植収穫中。 ・アザミウマ類、ハモグリバエ類、タマネギバエが発生している。	・ハウス周辺の除草を行う。 ・タマネギバエは高湿度条件下で産卵されるので降雨後は早めの薬剤防除を行う。
アスパラガス (ハウス立茎)	・斑点病、灰色かび病、アザミウマ類が一部で見られる。	・樹を軽くゆすり、老化花弁を落とす。 ・ハウス内湿度を高めないように換気に努める。 ・ハウス周辺の除草を行う。

4. 牧草生育状況（7月1日現在）

作物名	生育状況				適要
	項目	29年	平年	遅速日数	
牧草(2番)	草丈	8.3cm	8.0cm	±0	生育は平年並み
デントコーン	草丈 葉数	64.3cm 7.5葉	72.0cm 8.5葉	-3	気温が低いため 生育は緩慢である

牧草の生育を適正にし、牧草割合を高めるため追肥を行いましょ。

- 1) 追肥により、収量が高まります。
- 2) 追肥により、分けつが発生し牧草割合が無追肥より高まります。(雑草の侵入防止)

5. 6～8月は「農薬危害防止月間」です！

◎農薬使用基準を遵守しましょう。

農薬の使用基準を必ず確認し、適用作物、使用量・濃度、使用時期、総使用回数、使用期限等の基準を厳守しましょう。

◎農薬の飛散に気をつけましょう。

露地作物の農薬散布時は隣接畑への飛散に注意しましょう。

特に、水田防除時は、隣接しているビニールハウスの入口や側面を閉め、農薬の被害防止に努めましょう。



必ず確認！